

第62期 中間報告書

2022年1月1日から2022年6月30日まで



第 22 回 厨房設備機器展 当社出展ブース



大和冷機工業株式会社

<http://www.drk.co.jp>

証券コード 6459

株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、2022年6月30日をもちまして、第62期事業年度の中間期（2022年1月1日から2022年6月30日まで）を終了致しましたので、この期間の事業の概況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年9月



代表取締役社長
尾崎 敦史



事業の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気は、緩やかに持ち直してきました。個人消費についても、緩やかに持ち直してきており、消費者マインドは、下げ止まりの兆しがみられました。

企業収益については、一部で弱さがみられるものの、総じてみれば改善しています。

海外経済では、一部に足踏みがみられるものの、持ち直しています。ただし、世界的な金融引締めが進む中で金融資本市場の変動や原材料価格の上昇、供給面での制約等による、わが国経済を下振れさせるリスクに留意する必要があります。

当社の主要取引業種の外食産業においては、消費者の消費行動が大きく変わり、店内飲食が縮小する一方で、テイクアウトやデリバリーサービスが増加するなどの動きがみられましたが、新型コロナウイルス感染症拡大前の状態に徐々に戻り始めつつあります。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や急激な円安の影響による資源価格や原材料仕入価格の高騰、人件費の上昇により厳しい状況になっております。

このような状況のもと、HACCP義務化で求められる食の安心・安全に向けた顧客のサポートとしてIoT技術を利用した遠隔温度監視システム搭載の冷蔵庫や、地球環境にやさしいノンフロン冷媒を採用した薬用冷蔵庫の市場投入、及び省エネ性能向上を図った既存製品のモデルチェンジ等を行い、社会の動きに適合した店舗のトータルサポートに注力してまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間における業績につきましては、売上高210億9千4百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益33億2千6百万円（前年同期比4.9%増）、経常利益32億7千4百万円（前年同期比4.9%増）、四半期純利益19億7千9百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

今後の見通しにつきましては、経済社会活動の正常化が進み、景気が持ち直していくことが期待されるものの、新型コロナウイルスの再拡大、原材料価格の上昇等、依然として予断を許さない厳しい経営環境が続くものと予想されます。

このような環境のもと、当社は、社業の安定成長を図るため、顧客のニーズを的確かつ迅速に捉えて新製品の開発と新規顧客の開拓に繋げ、常に安全・安心を提供できるサービス技術の一層の強化等、顧客の信頼に応えうる諸施策を積極的に推し進め、かつ、製造コストと経費の削減を図り、収益基盤の改善に努めてまいり所存であります。

なお、中間配当金につきましては、1株につき15円とさせていただきますので、ご報告申し上げます。

四半期貸借対照表

(単位：百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
期 別	当第2四半期会計期間	前 期	期 別	当第2四半期会計期間	前 期
科 目	2022年6月30日現在	2021年12月31日現在	科 目	2022年6月30日現在	2021年12月31日現在
流 動 資 産	63,597	63,143	流 動 負 債	25,930	11,528
現金及び預金	55,622	55,102	支払手形及び買掛金	5,698	5,820
受取手形及び売掛金	4,845	5,273	未払法人税等	180	1,306
有 価 証 券	-	100	引 当 金	395	409
商品及び製品	1,373	1,095	契 約 負 債	17,241	-
仕 掛 品	351	291	その他の流動負債	2,415	3,992
原材料及び貯蔵品	805	723	固 定 負 債	397	1,400
点検修理用部品	192	190	引 当 金	388	1,391
その他の流動資産	406	369	その他の固定負債	9	9
貸倒引当金	0	△ 1	負 債 合 計	26,328	12,929
固 定 資 産	23,051	19,575	純 資 産 の 部		
有形固定資産	10,443	10,561	株 主 資 本	60,277	69,745
無形固定資産	149	136	資 本 金	9,907	9,907
投資その他の資産	12,458	8,877	資 本 剰 余 金	9,867	9,867
投資有価証券	379	281	利 益 剰 余 金	41,081	50,549
その他の投資	12,142	8,659	自 己 株 式	△ 578	△ 578
貸倒引当金	△ 63	△ 64	評 価 ・ 換 算 差 額 等	43	44
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	43	44
資 産 合 計	86,649	82,719	純 資 産 合 計	60,321	69,789
			負 債 ・ 純 資 産 合 計	86,649	82,719

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
 (当第2四半期会計期間)
 2. 有形固定資産の減価償却累計額 16,920百万円

四半期損益計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間	前 期
	2022年1月1日から 2022年6月30日まで	2021年1月1日から 2021年6月30日まで	2021年1月1日から 2021年12月31日まで
売 上 高	21,094	21,009	43,979
売 上 原 価	9,205	8,626	19,136
売上総利益	11,889	12,382	24,843
販売費及び一般管理費	8,563	9,211	18,577
営業利益	3,326	3,171	6,266
営業外収益	74	117	194
受取利息及び配当金	15	18	31
受取補償金	20	48	64
スクラップ売却益	15	9	22
その他の営業外収益	22	40	75
営業外費用	126	169	332
支払補償費	-	14	36
スクラップ処分費	100	144	276
その他の営業外費用	25	10	20
経常利益	3,274	3,119	6,128
特別利益	-	-	56
投資有価証券売却益	-	-	56
特別損失	0	0	939
固定資産除却損	0	0	4
その他の特別損失	-	-	935
税引前四半期 (当期)純利益	3,274	3,119	5,245
法人税、住民税及び事業税	84	1,089	1,907
法人税等調整額	1,210	△ 71	△ 273
法人税等合計	1,294	1,017	1,634
四半期(当期)純利益	1,979	2,102	3,610

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	2022年1月1日から 2022年6月30日まで	2021年1月1日から 2021年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	1,546	3,832
投資活動による キャッシュ・フロー	738	△ 1,275
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 765	△ 767
現金及び現金同等物 の増減額	1,519	1,790
現金及び現金同等物 の期首残高	53,902	52,267
現金及び現金同等物 の四半期末残高	55,422	54,057

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は、前事業年度末と比べて1,519百万円増加の55,422百万円となりました。これは、営業活動及び投資活動によって得た資金を財務活動に充てたためであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によって得た資金は、1,546百万円(前年同期に得た資金は3,832百万円)となりました。この主な要因は、税引前四半期純利益3,274百万円、未払費用の増加1,101百万円が、法人税等の支払額1,153百万円などを上回ったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によって得た資金は、738百万円(前年同期に支出した金額は1,275百万円)となりました。この主な要因は、定期預金の払戻による収入1,200百万円が、有形固定資産の取得による支出225百万円、投資有価証券の取得による支出99百万円などを上回ったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によって支出した資金は、765百万円(前年同期に支出した資金は767百万円)となりました。この主な要因は、配当金の支払額764百万円であり、ます。

新しいフードサービスの トビラを拓く

第 22 回厨房設備機器展に出展

2022年2月15日(火)～2月18日(金) 東京ビッグサイト

【新しいフードサービスのトビラを拓く】をテーマに掲げ、「コロナによる食の提供サービスの変化」をコンセプトに調理実演を実施。テイクアウトや無人販売、自動販売機での販売に向けた衛生管理や調理方法を紹介し、コロナ禍で普及した新しいサービスの提案をしました。

また「当社独自の“トビラ”技術」をアピールした自動スライド扉、両開き扉、4枚小扉スライドなど“トビラシリーズ”。非対面・非接触での受け取りを想定した「電子錠ロッカー」。アイスケーキやジェラートを陳列販売する「冷凍対面ショーケース」を展示。

その他にもノンフロン冷媒 R600a を使用した「ノンフロンショーケース」を参考出展。SDGs の環境保護の目標に向けて、ノンフロンへの転換に取り組んでいます。



▲自動販売機ラインナップ



▲調理実演



▲当社独自の「トビラ」ラインナップ



▲ノンフロンショーケース



食の安心・安全への取り組み

IoTを活用したHACCP支援 (遠隔温度監視システム)

HACCP システムはフードチェーン全体で食品の安全を確保するための手法で、SDGs の目標達成に寄与する活動の1つです。

冷蔵庫で保管する、よく加熱する、手をしっかり洗って食べるという取り組みから人々の健康的な生活を確保。また食品を安全に取り扱うことは貧困や飢餓をゼロにすることにも繋がります。

そこで当社は HACCP システムを普及させるために、IoTを活用したHACCPを支援する遠隔温度監視システムを2022年1月より開始しました。

daiwa

店舗内の業務用冷蔵庫

温度管理

自動化 + 省力化

温度管理を自動化・省力化するシステムです



2022 NEW MODEL



HACCPに沿った衛生管理(温度管理)を自動化・省力化

遠隔温度監視システム

冷蔵庫の温度を常時測定し、クラウド上でデータを蓄積。パソコンやスマートフォンから確認・記録することができるシステムです。また遠隔操作で冷蔵庫の温度設定を変更することも可能です。

±0.5℃の温度範囲で、食材を一定に保つきめ細かな鮮度管理



401HC-NP-EX



603HC-EX

インバータ制御 恒温高湿庫



経済的で取扱いが楽な蓄冷剤を簡単・効率的に凍結

蓄冷剤凍結庫



223FFE

翌日の蓄冷剤が不足しそうな時でも、当日の17時に投入すれば翌日使えます。(0℃グレード)

-21℃の蓄冷剤も活用でき、夏場の商品品質も保てます。

パーティカルタイプに製氷能力95kgが新たにラインナップ!

アンダーカウンタータイプ パーティカルタイプ 製氷機



DRI-65LMTF



DRI-95LMVF

低製氷コストを実現

消費電力、消費水量の省エネ化により、低製氷コストを実現。市販の水に比べ、グンとお得です。

ムダのない節水構造

給水系統をムダのない節水設計にし、消費水量を少なくしています。



DC-ME15C



DC-ME18C

温暖化係数が低く、地球環境にやさしいノンフロン冷媒を採用

ノンフロン薬用冷蔵ショーケース

ノンフロン冷媒採用

フロン排出抑制法の対象外のため、機器の修理時や廃棄時にフロン類の回収・破壊、簡易点検の実施、修理履歴の保存などの管理義務が不要です。

上置型インバータ制御 大扉冷凍・冷蔵ショーケース 小扉冷蔵・冷凍冷蔵ショーケース ジョッキクーラー

大扉冷凍タイプ・小扉冷凍冷蔵タイプ・ジョッキクーラーがインバータ機となり、省エネ性能が向上しました。

大扉タイプ		小扉タイプ		ジョッキクーラー
冷蔵タイプ	冷凍タイプ	冷蔵タイプ	冷凍冷蔵タイプ	
441AKP-EC	203EFKP-EC	643EDP-EC	403BDP-S1-EC	201NYAGP-EC



DDW-DE6
(13-50/13-60)

ドアタイプ食器洗浄機

リモートコントローラー標準装備

視認性・操作性がアップし、使い勝手が向上しました。

念入りモード

標準の洗浄モードより長時間洗浄を行う念入りモード。落ちにくい汚れに対応します。

休止モード

休止モード中は扉を閉めても洗浄せず、タンク内の保温効果が高まります。

会社の概況

2022年6月30日現在

商号	大和冷機工業株式会社
英文名称	DAIWA INDUSTRIES LTD.
資本金	9,907,039,049円
発行可能株式総数	84,000,000株
発行済株式総数	51,717,215株（自己株式669,240株を含む）
中間期末株主総数	3,053名
大阪本社	大阪市天王寺区小橋町3番13号 大和冷機上本町DRKビル
東京本社	東京都台東区台東2丁目4番3号 大和冷機秋葉原DRKビル
佐伯工場	大分県佐伯市大字長良3325番地6
福岡工場	福岡県太宰府市大字北谷字岸田206番地6
関東利根工場	埼玉県加須市豊野台1丁目345番地5
従業員数	2,493名
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・冷凍・冷蔵庫、ショーケース、製氷機、自販機及び冷熱応用製品の製造販売及びリース並びに点検修理・冷熱機器の設備の工事及び各種部品の製造販売並びに点検修理・厨房機器、装置、部品の製造販売及びリース並びに点検修理・店舗・厨房の企画、設計及び施工

役員

2022年6月30日現在

代表取締役社長	尾崎敦史
取締役副社長	尾崎雅
専務取締役	杉田雅壽
取締役	小野芳明
取締役	齋藤純夫
取締役	出納美宏
取締役	添田千夏
取締役	平出和彦
取締役	工藤哲一郎
常勤監査役	大津加一
監査役	日下敏彦
監査役	楠裕美

- (注) 1. 取締役 小野芳明、齋藤純夫、出納美宏、添田千夏の4氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 日下敏彦、楠裕美の両氏は、社外監査役であります。

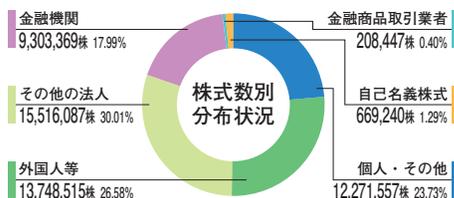
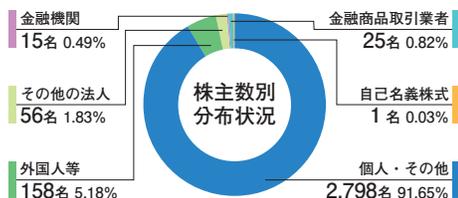
執行役員

2022年6月30日現在

社長執行役員	尾崎敦史
副社長執行役員	尾崎雅
専務執行役員	杉田雅壽
執行役員	平出和彦
執行役員	工藤哲一郎
執行役員	大久保雅誠
執行役員	亀井達俊
執行役員	足達二介
執行役員	長谷川敬
執行役員	原田一志

株式分布状況

2022年6月30日現在



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	特別口座の口座管理機関連絡先 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う (公告掲載URL http://www.drk.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種のお手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

信頼で結ばれたワイドなサービスネットワーク

「より迅速に、よりの確に」をモットーに、お客様が安心してお使いいただけるようトータルサポートでフォロー致します。

